

下水道を上手に使って節電をしよう！ 食器のふき取り洗いが大きな力に

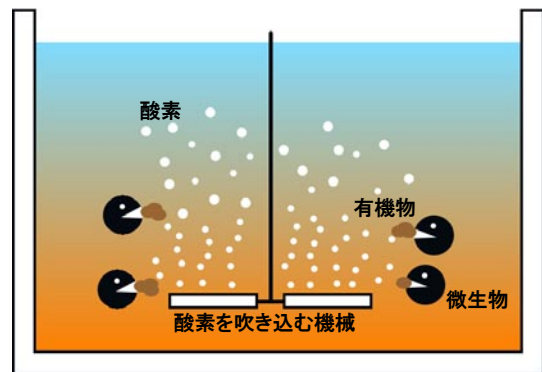
○ 下水処理場はたくさんの電気を使う施設です

下水処理場は、トイレで流した水、台所の排水、お風呂で使った水など（下水）を集めて、元の安全できれいな水に戻して川や海にかえします。

下水を元の水に戻してくれるのは微生物と呼ばれる小さな生き物たち。下水処理場のプールにはたくさんの微生物がいて、下水の中の「食べかす」や「ウンチ」など（有機物と言います）を取り除いてくれます。この時に、微生物が働きやすいようにブクブクと酸素を送ってあげることが大切（金魚の水槽をイメージしてください）です。そして、下水の中に含まれる有機物が多ければ多いほど、プールに送る酸素の量がたくさん必要になります。

下水処理場は、大きいものでは1日に何十万トンという下水を処理するので、酸素を送るために必要な電力はとて大きくなります。

東京都の下水処理場（20カ所）では、1日に東京ドーム約4.5杯分の下水を処理しています。そのため、空気を送るのに必要な電力量も大変大きくなり、これは都内全体で使う電力の約1%を下水処理場が使う計算になるそうです。



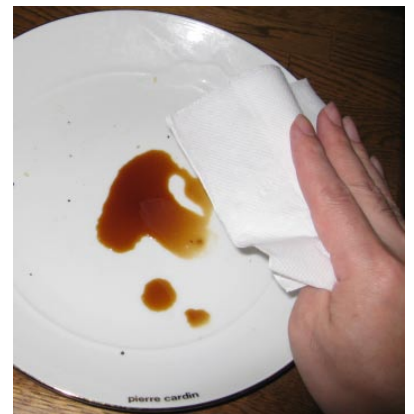
○ なぜふき取り洗いで節電できるの？

下水処理場に入ってくる「食べかす」などの有機物の量が多くなると、そのぶん微生物はたくさん働かなければなりません。そして、私たち人間もそうですが、たくさん運動（仕事）するためには、たくさんの酸素が必要です。

そこで、考えてみてください。私たちが下水道に流す「食べかす」などの量を減らすことができれば、微生物の仕事は楽になります。そうすると、送る酸素の量も減らすことができるのです。

そうです。食器を洗う前に、**食器についた油や食べかすなどをふき取る**ことがとっても有効なのです！

下水処理場で一番多くの電力を必要とするのが送風機と呼ばれる酸素を送るための機械です。その電力を少なくできるのです。



ボロ紙や新聞紙などでふき取ろう！

○ 皆さんの一歩が大きな力に！

「食器のふき取り洗い」は誰もができる簡単な作業です。そして、その1つ1つは小さな一歩かもしれませんが、皆さんの一歩を合わせればとても大きな力になります。

学校の給食時間や、お家での食事の後、皆さんが協力して食器のふき取り洗いを行うことで、とても大きな効果が得られるはずです。

料理に使ったキッチンペーパーを食器のふき取りにもう一度使ったり、捨てるはずだった紙切れを再利用してふき取りを行えば、ゴミの量を増やすことなく節電ができます。